

【鈴鹿市】 校務DX計画

1. はじめに

本計画では、文部科学省「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」を参考に、鈴鹿市における校務DXの現状を分析し、今後の推進に向けた具体的な施策を提示します。

なお、本計画はあくまで現時点での計画であり、今後の社会情勢や技術革新、国や県の動向、本市の財政状況等、様々な要因により変更となる可能性があります。常に最新の情報を収集し、柔軟に対応しながら、校務DXの推進に取り組んでまいります。

2. 本市の課題

(1) クラウドツールの活用が不十分

クラウドサービスを活用した情報共有や業務効率化が進んでいない。

(2) FAXでのやり取り・押印

依然としてFAXや押印による書類のやり取りが多く、ペーパーレス化が進んでいない。

3. 目標

(1) 教員の業務負担軽減

事務作業の自動化・効率化により、教員がより多くの時間を教育活動に集中できる環境を実現する。

(2) ペーパーレス化の推進

紙の書類の削減により、情報共有の効率化と環境負荷の低減を図る。

4. 推進策

4. 1 クラウドツールの導入・活用促進

(1) 既存のクラウドツールの利活用促進

現在も利用可能な汎用的なクラウドツール（Google Workspace）の各学校での利活用を促進し、業務効率化を進める。各学校の活用の推進に当たっては、教育指導課のICT担当指導主事が学校に対して伴走支援を行う。

（具体的な利活用例）

- ・ Google Chat、Google Classroomによる業務連絡の伝達
- ・ 職員会議や研修会における事前の意見集約
- ・ 業務内容のシェア

(2) クラウド型校務支援システムの導入

クラウド型校務支援システムを導入することで、教職員が教育データに基づいた的確な指導を行えるようにするとともに、教職員が子どもに向き合う時間を増加させ、児童生徒の個別最適な学びを実現させる。

校務支援システムと連携できる保護者連絡システムを同時に導入することで、保護者の利便性を高めるとともに、教職員の業務効率化を図る。

クラウド型のメリットを生かし、各種クラウドサービスとの連携機能の活用を進める。

(3) クラウド型採点システムの導入

クラウド型の採点システム中学校10校に導入することで、教職員の採点業務を軽減するとともに、テスト結果を即時にデータ化し、学習改善、指導改善に生かす。

4. 2 FAXでのやり取り・押印の見直し・ペーパーレス化

(1) FAXでのやり取りの原則廃止

教育委員会と学校間での業務において、FAXの使用を原則廃止し、クラウドサービスへの移行を順次進める。

(2) 保護者との連絡手段のデジタル化

保護者連絡システムの導入により、教育委員会や学校から保護者への連絡をペーパーレス化するとともに、欠席連絡をデジタル化することにより、保護者の利便性を高め、教職員の業務負担を減らす。

(3) 提出書類等の押印の見直し、デジタル化

保護者から学校に提出する書類への不必要な押印、学校から教育委員会に提出する書類への不必要な押印を見直すとともに、出来るところからデジタル化を進める。

5. スケジュール

		2024年度	2025年度	2026年度
4. 1 クラウド ツールの 導入・活 用促進	(1) 既存のクラウドツールの利活用促進	利活用促進の呼びかけ	各学校での取組の伴走支援	利活用が進む学校の取組を横展開
	(2) クラウド型校務支援システムの導入	システム導入・運用開始	システムの安定稼働、各種連携の強化	システムの安定稼働、各種連携の強化
	(3) クラウド型採点システムの導入	予算要求	システム導入、利活用開始	活用の推進、利活用に向けたデータ蓄積
4. 2 FAXでの やり取り・押印 の見直し・ペー パーレス 化	(1) FAXでのやり取りの原則廃止	教育委員会と学校間でのFAX利用の状況調査	FAX利用の見直しと移行策の検討および実施	FAX利用の原則廃止
	(2) 保護者との連絡手段のデジタル化	保護者連絡システムの導入・運用開始	自治体連絡のデジタル化、学校からのお便りのデジタル化	ペーパーレス化の推進
	(3) 提出書類等の押印の見直し、デジタル化	教育委員会と学校間での押印の状況調査	押印廃止に向けた規約改正の手続き等の実施	不要な押印の廃止